

---

# 魔法少女リリカルなのは《目つきの悪い高町家次男》

さいですか

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは《目つきの悪い高町家次男》

### 【コード】

N3104Y

### 【作者名】

さいですか

### 【あらすじ】

いきなり神様に書かされたアンケート

試しに自重せず書いてみたぜ

……………ねえな

アンケートってねえよ

昔

「俺はいずれ転生してリリなのかネギまの世界に行くんだ」

そう言っていた友人がいた

その時は笑って流していた俺だが今だからこそあえて言おう

「ねえよマジで」

「いやマジだから」

目の前のジジイは俺の言葉を否定する

このジジイが言うには俺はテンプレ通り死んだらしいだからテンプレ通り転生させるから希望を書けと言われたが

「良いから早うこの中から好きなのをえらばんか」

そう言って目の前の紙に再び目を通す

『これで貴方も転生者ワクワク特典アンケート』

Q1行き先を決めよう

：目つきの悪い某魔眼の王の容姿で凜々狩るマジ狩るな魔王無双の次元世界

：目つきの悪い某魔眼の王の容姿でカードゲームで決闘主義の妖精有り次元融合ありの学園島生活未来編もあるよ

：目つきの以下略で貴族至上主義の異世界で  
：貴族  
：平民  
：犬」生活

：目以下略で女尊男卑の世界で主人公とウツホと噂される学園生活

：略で薬味少年を押し退けてのハーレム教師生活ただし生徒限定

：その他

(容姿はデフォです変更出来ません)

Q2能力を決めよう(複数記入有り) 「注1可能な限り善処はします」 「注2細かく設定してくれると嬉しいな(はあと)」

A

Q3 神様に一言（あんまりヒドイ事書かないでね）

A

以上で終わりです善き第二の人生を

やっぱねえよコレ

何で容姿だけ固定なんだよ訳分かんねえし

しかし書かなければ目の前のジジイと二人つきりそっちの方がねえな

「これで良いか」

とりあえず書き終わり紙をジジイに渡す

ジジイは紙を見てから

「まあええじゃろ。さらばじゃ」

そう言った瞬間俺は穴に落ちた

「やっぱし……いいいいいい……」

**意識が覚醒した段階ですでに逃げ場無し（前書き）**

アンケート記入例

行き先

その他：リリカルマジカルな魔砲少女無双の次元世界（他の転生者が居ないし来ない）

能力または要望

1 無窮の武練

2 ありとあらゆる宝具デバイス等の作成改造スキルと工房

3 皇帝特権（複数のスキルを保有可有効制限無し）

4 専用のデバイス（容量は可能な限り大きい）

5 完成  
ジ・エンド

6 召喚スキル

7 魔力（最大出力は鍛えると上がる）

神様に一言

ねえよ（存在その他諸々）

意識が覚醒した段階ですでに逃げ場無し

ども転生者こと高町英雄たかまちひでおです

うん、ねえよな

Q 何で養子？

A 父さんこと高町士朗が仕事先で拾ってきたから

やっぱねえよ

何が悲しくて戦闘民族と名高い高町家に…

まだナカジマ家の方が…いやアッチもねえな

でただいま諸悪の根源？である父さんは入院中で家には俺と義妹（誰が何と言おうと義妹、義姉にあらず）の高町なのはが留守番をしている

母さんと姉さんは喫茶店の仕事と父さんの看病で忙しく残ったクソ兄は役立たず

必然的になのはの面倒をみなくてはならなくなる

……………無理



第一になのはが俺の目が怖いと言われ目を合わせてくれない  
第二に俺もなのと同じ年いろいろ限界がある

コレは早いとこ秘薬でも作って父さんに復活してもらわなければ

しかし問題がある

まずって言うか唯一無二の問題

なのはが離れてくれない

独りは嫌だと母さん達が帰るまで常に俺の服を掴んで離さない(その間会話ゼロ)

トイレすら俺が耳を塞いでドアの前にいなければならぬ

え？工房の行き方そんなあのジジイが夢枕に立って教えてくれたさ

この首から下げた鍵を挿せばどっからでも行けるらしいまだ行ったことないけど

デバイスも工房に置いてあるらしい

ついでに能力何かも工房に入らないと使えないそうだ

つまり今の俺は目つきの悪いただの子供(簡単な料理や読み書きは出来る)

いっそばらすか

「なあ」

ビクッ

（くじけるな俺）

「父さんに早く退院してほしいか？」

「……………」（コクッ）

「なら今から見たモノ母さん達に秘密に出来るか？」

「……………」（コクッ）

「じゃあ約束な」

それから二人で階段を登り二階にある俺の部屋の前に来る

「えーっとコレを挿せばおっ挿さった挿さった」

「…………?..?」

ドアの隙間から光りが漏れている

「さあいくぞ」

ドアを開き中に入る

ファイトオオイッパツアアアツ

光り溢れるその先には…

「すごい魔法みたーい」

なのはの声で意識が戻る

目の前にあるのは奥に繋がる通路と大きな作業机とその上に置かれたハードカバーの厚い本が一冊だけ

正直拍子抜けだった

なのはははしゃいでいるが俺としては見たこともない工具、棚に列ぶ薬品類等を想像していただけにこの部屋は少し物足りなく感じた

「あんまりはしゃいで転ぶなよ」

なのはに注意をしてから俺は机の上の本を手取る

本には鍵穴付きの留め具がついていてそれを外さなければ開く事が出来ない仕組みになっていた

試しに工房の鍵を差し込むと  
カチリッ

という音とともに留め具が外れる

どうやら工房とこの本の鍵を兼用しているようだ

改めて本を開くと近未来的なホログラムが現れる

《マスター認証完了》

《次に名称設定をお願いします》

「名称か……お前は何か出来るんだ」

《ワタシはマスターがこの工房で製作行為をされる際の検索、サポート又は代理製作、転送保管管理が可能です》

《つまりマスターはこの工房内限定ではありますがイメージのみで製作が可能です》

《英霊エミヤの投影の様なモノと考えて頂ければよろしいかと》

成る程だからここには何も無いのか

「わかった、それからお前の名称は創製の書だ」

《了解、名称設定『創製の書』…設定完了》

『まずは何をなさいますか』

「秘薬だ意識不明の重体の人が一発で治る様なヤツ」

《ではエリクサー等でよろしいでしょうか》

「おう、じゃあ製作開始………クリエイト」

《了解クリエイト開始》

《イメージリンク良好》

《製作中》

《製作完了》

《転送中》

《転送完了》

目の前に現れる一本のピン

そのラベルには

「ファイト一発！リポ〇タンA」  
エリクサー

と書かれていた

それを見て思わず

「ねえよ」

《何か不備がありましたか？》

「何でもない気にするな」

それからやたら静かなのに気付き部屋を見回す

「おい、なのはがどこに行ったか知らないか」

そうなのはがいないのである工房から出ていないはずだが

《お連れの少女は現在休眠室のベッドで就寝中です》

これで勝つる……なんにだよ

あの後熟睡しているのはをおぶり工房を後にした俺は父さんが入院している病院に来ていた

現在深夜0時

家から病院の屋上まで転移する

そこからスキル「皇帝特権」を使いアサシン（エクストラ）の圏境を使い姿を消ながら病室に侵入する

室内には色んな機械に繋がれ眠ってる父さんがいた

だがそれも今夜までだ俺の安息の日々の為ついでになのは為に……

ってこれじゃあ暗殺しにきたみたいじゃん俺！

とりあえず父さんの口にエリクサーのピンを突っ込み流し込む

これで良し

じゃあな父さん



翌日

朝一で病院から電話があり全員で病院に向かう

家を出る前にクソ兄がなのはを抱っこして行こうとしたが俺のおんぶが良いと喚きクソ兄が俺をめっちゃ睨んできた

……ねえよ

とりあえず美由紀姉さんがなのはをおぶる事で妥協してくれた

何とか病院に着き病室に向かうと昨日まであった機械類が無くなり父さんがベットから体を起こしていた

それを見て母さん号泣姉さんも号泣クソ兄もホロリなのはも泣きながら笑っていた

医者曰く何故か一晩で傷が癒え意識を回復したのは奇跡としか言えないそうだ

これでとりあえず小三までは平和だぜ

オリ主設定(前書き)

随時修正します

## オリ主設定

たかまちひでお  
高町英雄

容姿：川村英雄（将来一般就職は絶望的）

魔力：（枯渇はしないが最大出力は訓練次第）

スキル：皇帝特権（主張すれば何でもアリ複数の主張も可能：例  
対魔力Aと騎乗Aと怪力A魔眼EXの同時発動等、時間的制限無し）

無限の創製（仮）：工房内であれば創製の書を使い瞬時にあらゆる  
宝具デバイス等の創製が可能

完成：黒神めだかの異常使える技術に制限は無いが覚える迄に少し  
時間がかかるジ・エンド  
アフノーマル

無窮の武練：本人もこれを書いた事を忘れているが対クソ兄戦（な  
のはに懐かれない八つ当たり）ではテンパっても戦えるのはこの力  
のおかげ

デバイス：「創製の書」

見た目はハードカバーの本だが中身は工房内で無限の創製のサポ―  
トや高速転送果ては戦闘サポートをしてもまだ無駄に空きのある超  
高性能端末

夜天の書同様にデバイス自体には意志は無く簡単な受け答えしかし

ないがウィル子が感染した為システムを勝手に統括管制されてしまっている

現状：高町家の容姿で次男目つきのせいでクラスメートには怖がられてる為友人はゼロ

義父の退院後急に懐き始めたのはに今だ戸惑う

どこに行くにもついて来るためなのはの友人二人に丸投げしようと考えている

義兄の恭也には普段シスコンぶる癖に肝心な時に役に立たない為クソ兄呼ばわりしている

口癖：ねえよ、ねえな

原作知識：あるにはあるがユーノは淫獣、クロノはサーチ&デス、スカさんはオレンジで顔芸、シグナムは戦闘狂等偏っている

クラスに友人等一人足りとも存在せんわ！

父さんが退院してから一年俺となのはは小学生になった

この一年で変わった事

まず特典の召喚スキルで適当に喚び出したらウィル子が出てきた

しかも創製の書に感染して勝手に管制人格を名乗り始めた

ねえよマジで

ちよくちよく宝具を創り始めた

最近一番の出来は「騎士は徒手にて死せず（ナイト・オブ・オーナ  
ー）」だ

父さんに怪我を治したのがバレた

どうやらなのはがうっかりしゃべってしまったらしい

まあこれと言って問題無し

近所であった誘拐事件の犯人をボコツた二回程

学校で只今絶賛はぶられてます（なのはは隣のクラスだ）

最後これには俺も驚きを隠せないぜ

なんとなのはが懐いてきやがった  
しかも「ヒデ君って呼んでいい？」だと！？

思わず家族一同（俺含め）次はなのはが入院かと焦ったものだ

俺も治癒系の宝具の製作を本気で考えた

しかも俺の後をついて歩く様になった

やべえ状況が対してかわらねえ

その為朝早くジョギングついでにしか能力の練習ができなかった

駄菓子櫛それも昨日までの事

なんとあのなのはに遂に友達が出来たんだそれも二人（どっちも女の子　ここ大事）

これで一人屋上で空を眺めながらゆったりと飯が食える

「そう思ってた時期が俺にもありました」

現在昼食の時間

場所学校の屋上

「どろしてこつなつた」

遡る事数分前

俺はいつものようになのはが来る前に逃げようと弁当片手に屋上に  
ダッシュ

案の定隣のクラスからなのは登場

しかしヤツには決定的な迄に速さが足りない

昨日までならばここであつさりと抜き去り勝負が決まる

だが今日は…

「そこっ！」

突然の釘宮ボイス

そして脇腹に走る衝撃

俺は僅かに体勢を崩すがそのまま直進

「すずかつ！」

「えいつ！」



可愛らしい掛け声とともに腹部に走る衝撃に意識を刈り取られた

これは後に聖祥大附属小学校で以後名物となる

魔眼と三天使の闘争最初の一戦になるとは誰も予期していなかった

…ねえよ

再び現在

俺の隣に座るなのはと月村すずかとその隣にアリサ・バニングス

正直居心地の悪さハンパない

両脇で俺越しに繰り広げられるガールズトーク

ヤバイ俺のSPがドンドン消費される

しかも帰りもこのまま行けば捕まる

ならば…

容姿の選択はしたかった目つきとか

「自由に向かつて俺は飛ぶ！アアアアアイキヤアアンンン！  
！フラアアアアアイイイ！！！」

俺は考えた

廊下に出て捕まるなら出なければ良いと

幸い教室は2階そこまで高くはない

ならば窓から出れば良いじゃないか

ホームルーム終了後教師が教室を出た瞬間

あらかじめ回収していた外履きに履き替え内履きを鞆に突っ込む

そして窓を開けて足を掛ける

廊下から聞こえる足音が複数

俺を捕獲しようとはわざわざ出向いて来るらしい

そして教室の扉が開かれる

んでもって最初に戻る

ふっ奴らとクラスメートのア然とした顔が目には浮かぶぜ

そう俺は小学一年にして窓からダイブを敢行

そして

「サラダバー！フハハハハ…」

着地に成功しダッシュで校門を抜ける

「自由だあああああああつ！！！！」

思わず叫ぶ

今まではなのはが一人だったから一緒に帰っていたが今日はあの二人がいる

帰りは二人の内どちらかの車で送ってもらおう予定らしいからな

「さあてこれからどうしよか」

《って無計画にあんな脱出劇繰り広げたんですかマスター!》

頭に響く少女の声

(悪いかよウィル子)

《良いですかマスター今の時期からじっくり攻略した方が後々揉める事少なくハーレムを築けるとウィル子は思うのですよ》

(そんなつもりは更々無いと何度言ったそれより今日も管理局にハッキングしてたのか)

《ニホホホ、今日もバツチリ管理局のドス黒いデータをいっぱい漁ってきたのですよニホホホホ》

コイツ、ウィル子は創製の書の管制人格を自称しているがその正体は俺が適当に行った召喚によって顕れた電子の精霊であり極悪愉快犯型コンピューターウィルス「Will・CO21」そのモノで俺の容姿の基になった人物未来視の魔眼の王川村ヒデオの相棒

コイツが出てきたのもおそらくはあのジジイの仕業

まあ今ではこうやって食事兼情報収集の為に管理局にハッキングしてもらっているが

《ですからマスターがハーレムを築くには今からの積み重ねが…》

何故かコイツは俺にハーレムを築く事を薦める

そんな事する気があるならアンケートにそれっぽい能力書いてるつ  
うの

まあ俺もせめて容姿の選択権は欲しかったけど

かと言って有り得ねえ髪の色にオッドアイのイケメンはねえけど

《マスター！マスター！アレ見て下さいよアレ！》

因みにウィル子は現在町のあっちこちにサーチャーを放ち俺の周囲  
のみを見ている

本体は工房にて留守番中だ

(そうそうあんな感じの髪に眼はねえ……ってオイッ！)

なんだあの厨二を体言した容姿の馬鹿は！

ヤベエ(笑)

腹よじれる(笑)

《(笑)何ですかアレ(笑)ちょっとあまりにも(笑)可笑しくて(

笑) 言語中枢に(笑) 支障が(笑) (笑) (笑) (笑) (笑) (笑)  
(笑) (笑) (笑) (笑) (笑) (笑)》

馬鹿ウィル子こっちは生で見ただぞ顔に出さないの大変なんだぞ  
(笑)

表情筋が攣るポーカーフェイスが…… (笑)

てか何で転生者がこの世界に？  
まさか…

やる時はやる……魔殺商会計画進行率5%

あの後何とか笑いを堪え帰宅

部屋に鞆を置きに行くと机の上に置き手紙が一枚

『久しいの

実はアレから一つの問題が発生しておぬしの世界に転生者を送れる  
様にしてしもうたメンゴboy神様

追伸

何人送ったかわからんから注意せよ』

うん、とりあえず放置だな

ジジイの手紙を読み当面は面倒臭いので無視することに決め工房に  
行こうとドアの前に立った時

顔面に衝撃が突き抜けた

ぶっ倒れる俺

余談ではあるがこの部屋のドアは内側に開く仕組みになっている

俺は素早くおそらく開け放たれているであろうドアの方を見る

そこにいたのは…

「うっ…ひっく…うっ、っ……ヒッ…ぐ…ん…うっ」

学校の制服を着て泣きじゃくる我が家の末っ子高町なのはがいた

ねえよ……じゃねえし！

「え！？おい！？なのはどうした何があった！？」

その後なのはが泣き止むまで抱き着かれた俺の制服がなんかイロイロなモノでエライ事になったのは言うまでもない

なのはが言うには学校からバニングスとこのリムジンで家の近くまで送ってもらった後いきなり現れた変な男の子に話し掛けられたが怖くて逃げたそうだ

やれ名前は何て言うのやれどこに住んでれのやれこれから遊ばないだの

しかも何度も頭を撫でようとしてきたらしい笑顔で



特徴を聞く限り帰りにみた厨二の様だ  
しかも明日なのはのクラスに転校してくるようだ  
うん早速問題発生か

面倒臭いけど後々揉めるより今消してしまっか

管理外無人世界に強制転送してヤっちまっか  
残骸は虚数空間に棄てれば良いし  
あれ？結構逝ける？

しかし殺人はまだなあ

でもこのまま放置しとくと絶対父さんとクソ兄からのとばっちりが  
あるだろう

そのまま虚数空間に不法投棄が一番かな

やるなら今夜か

いや待てジジイは何人送ったかわからんと書いてるつまり第二第三  
の厨二が現れる可能性がある

あんなのに次々と絡まれ続けていたらおそろくなのはは再び友達ゼ  
口に逆戻り…最悪ヒキコモリ……！？

ヤバい！？

そうなるとなのはの世話は誰が…最終的に俺？

365日毎日ヒキコモリの義妹の相手

……ねえよマジで

しかもそんな状態でもし魔法少女に覚醒してみる

なのはにコツチに括る理由は無く即行ミッドに行く

父さんの事だ俺もセツト確定

嫌だぜあんな自称正義の組織で働くの

せつかく今ウィル子と協力して魔殺商会計画を遂行してるのに……

ジジイに頼んで転生者全員の脳に直接厨二の処刑映像でも流して貰おうか

いつそクラス全員の前で延々と殴り続けるか

むしろ奴をヒキコモリもしくは転校させるつもりで

多分それで風評関係の被害がなのはに向く事は少なくなる

俺の方は……諦めよう

別に義務教育中ボツチでも問題なし

待ってるよ厨二

その前になのはとその友達二人にニコポナデポその他諸々用の魔除  
けのアクセサリー創ってやんなきゃ

嫌だぜあんなのお兄さんだなんて呼ばれるの

やる時はやる……魔殺商会計画進行率5%（後書き）

現在の魔殺商会計画の進行率5%

ただいまウィル子を介して黄金律A（皇帝特権使用）で株式等で合法的に稼いでいる（ただし次元世界レベルで）

名義は貴瀬伊織

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3104y/>

---

魔法少女リリカルなのは《目つきの悪い高町家次男》

2011年11月10日08時09分発行